



Aくんという高校生が我が家に来てくれました。心の中にAくんがなんとなくおり、仕事をしながらでもふとAくんのことを考えたりします。生活の中では、一日の時間が大きく変わりました。夫婦二人で暮らしていた頃より朝は早く、夜は遅くなりました。一日が長くなり、たまに『あー、疲れた』と感ずることもあります。でも、Aくんが自分から学校や友達のことなど、その日の出来事を話してくれたり、ごはんをいっしょに食べている時に主人が言った冗談でみんなが笑い転げた時は、日頃の疲れも忘れずし、家族になってきたのかなあと感ずます。

子育てに携わってみると、私一人では大変なことばかりだと実感します。主人をはじめ周りの人の力を借りたり、時には話を聞いてもらうだけでホッとすることもあります。特に里親の子育ては、子どもの成長の途中から関わることになるので、「こんな時どうしたらいいの」と思ふ事ばかりです。そんな時は児童相談所の担当職員の方や里親支援機関事務局に相談したり助けてもらったりしています。みなさんととても優しく的確にアドバイスして下さいます。

様々な事情がありますが、できる限り子どもたちには安心できる家庭、家族のなかで大きくなってもらいたいです。その経験が将来の力になっていくと思ひます。これはAくんと暮らしの中からも実感しています。

里親の子育ては時には大変と思ひ時もありますが、楽しいこと嬉しいことのほうが、いっぱいあります。里親に関心のある方、一歩踏み出してみませんか。